

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p>&lt;学習上の課題&gt; 知識・技能の習得に課題が見受けられる生徒が多い</p> <p>&lt;指導上の課題&gt; 「個別最適な学び」を進めるにあたっての支援のあり方を工夫・改善すること</p>	<p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「個別進度学習」を取り入れた一人ひとりの生徒の実態に応じた授業【10月以降1～2単元で】</li> <li>○ 生徒が自分自身の実態を知り、適切な学習方法を探索する場を設定した授業【教科は同上・学活等で適宜】</li> <li>○ 知識・技能の定着の促進を図る反復学習を含む授業【2学期以降やり直しテスト・3学期に家庭学習の手引き】</li> </ul>
思考・判断・表現	<p>&lt;学習上の課題&gt; 知識・技能の習得、語彙に関わる経験の不足 文を組み立てて文章化して説明することの困難 →基本的事項の習得不足が思考・判断・理解の支障に直結している</p> <p>&lt;指導上の課題&gt; 記述力を高めるための説明場面の設定</p>	<p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科の特性や授業の題材に応じた記述場面が設定された授業【2学期以降定期テストで・適宜授業中に】</li> <li>○ よりよい説明の例示と評価語彙の提示による生徒相互で鍛えあえる授業【個別進度学習の進行に伴って適宜】</li> </ul>

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<p>「言葉の特徴や使い方に関する事項」について漢字の習得も含めて困難がある。無回答率も要約や説明を求められる問いで高い。一つひとつの単語の意味を紙の辞書で丹念に調べたり、それを使った短文を作ったりするような活動、本文を段落ごとに要約したり小問を作ったりすることにより地道に「日本語慣れ」をさせたい。 数学では「数と式」「図形」「関数」といった基礎的・基本的事項の習得をより一層進めることが求められている。習得にあたって「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等を用いて反復演習する時間を授業内に設けるほか、長期休業中にはそれらを用いた家庭での学習を強く求めていく必要を感じる。</p>
思考・判断・表現	<p>国語では総じて記述式、短答式の問題形式には苦戦している。「言葉の特徴や使い方に関する事項」についての困難は「思考力・判断力・表現力等」の「書くこと」「読むこと」に直接関わる課題となっていると考えられ、無回答率も要約や説明を求められる問いで高くなっている。すべての学年で、調べた単語を使った短文づくりから経験を積ませ、全体の意味が通る段落を構成、文章を仕上げる工夫を求めたい。 数学でも記述式問題形式で苦戦していることがうかがわれる。基礎的・基本的事項の定着の上で、国語力とも関連させながら、解決を図りたい。 まずは本校全体での「国語力」を向上させるための取り組みが喫緊の課題である。</p>

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	C	<p>1学期の研究推進委員会で「個別進度学習」に取り組むことを決定、各教科で夏季休業に授業計画を練り直すことになった。2学期中盤以降に、生徒が自分自身の実態を知り、一人ひとりの実態に応じた適切な学習活動が進むような授業を本格的に行う。 やり直しテストへの呼びかけは2学期期末テスト以降に行う</p>	変更はなし
思考・判断・表現	C	<p>今年度10月の指導訪問は「学級活動・道徳・総合的な学習の時間」となるが、この中では「個」に焦点をあてた工夫が行えるように指導案の書式を提案した。主に話し合いや自己決定、協働等、「個別進度学習」と直結した授業展開を期待している。 国語力向上に関わって、時程表の見直しを行い、朝の読書活動を復活させた</p>	図書館と連携した授業を研究課題として加える

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能		
思考・判断・表現		

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

※評価  
 A 8割以上(達成)    B 6割以上(概ね達成)    C 6割未満(あと一歩)